

6 2 1 号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会 西部地域畜産経営技術推進指導協議会  
富山県東部家畜保健衛生所 富山県西部家畜保健衛生所 2021. 2. 10

小矢部市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ発生..... 1	ファボーレでとやまポークの安全性をPRしました ..... 5
小矢部市の養鶏場の高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)防疫措置の経過 ..... 2	新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組みについて ..... 5
高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)情報 ... 3	防疫情報..... 5
酒粕給与牛肉のブランド化に向けた取組み ~ 「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業について~ ..... 4	産休代替職員の紹介..... 6
	お知らせ ..... 6

## 小矢部市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ発生



ガス注入による殺処分



フレコンバック詰め



埋却



消毒ポイントでの車両消毒

農場等での防疫措置の様子

1月23日、小矢部市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が発生しました(国内38例目)。県内では初の農場での発生となります。全国でHPAIの発生が相次いでおり、県では各養鶏場における飼養衛生管理基準遵守徹底の指導を強化し、感染防止に取り組んでいる中で発生となりました。

農場には、県、小矢部市、いなば農協および自衛隊員延べ約2,200人が動員され、約13万羽の鶏の殺処分、埋却、鶏舎消毒等の防疫措置が24時間体制で進められました。また、発生農場の半径10km以内には、消毒ポイントが4カ所設置され、畜産関係車両の消毒が行われました。

防疫措置完了(1月28日)後、10日間の経過観察期間に発生農場から半径10km以内の養鶏場に異常が認められなかったことから、2月8日午前0時に搬出制限区域(発生農場から半径3~10km以内)が解除されました。なお、防疫指針により、防疫措置完了後21日間異常が認められなければ、移動制限区域(発生農場から半径3km以内)が解除され、HPAIは終息とみなされます。

(西部家保防疫課 小林獣医師)

# 小矢部市の養鶏場の高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 防疫措置の経過

1月23日にHPAIが発生した養鶏場における防疫措置については以下のとおりです。

## 1 発生農場の概要

農場所在地	小矢部市
飼養状況	採卵鶏 133,773羽 (殺処分羽数)
飼養形態	鶏舎6棟 (ウインドウレス鶏舎4棟、開放鶏舎2棟)

## 2 防疫措置に至るまでの経過

### 1) 1月22日(金) 16時30分

当該農場から鶏舎2棟で約2,000羽の死亡鶏が確認された旨の通報を受け、県の家畜防疫員が立ち入りし、鳥インフルエンザ簡易検査を実施。

### 2) 1月22日(金) 18時00分

簡易検査の結果、陽性を確認し、直ちにHPAIウイルスの遺伝子(PCR)検査を開始。

### 3) 1月22日(金) 21時00分

第1回富山県HPAI対策本部会議(以下、対策本部会議)を開催。本部長(知事)から遺伝子(PCR)検査で陽性の場合、迅速に防疫措置を開始できるよう人員確保と準備を指示。

### 4) 1月23日(土) 8時00分

遺伝子(PCR)検査の結果、H5亜型の遺伝子が確認され、国においてHPAIの疑似患畜と判定。

直ちに、第2回対策本部会議を開催し、本部長(知事)から殺処分等の防疫措置の開始を指示。併せて自衛隊の災害派遣を要請。

## 3 実施された防疫措置の概要

1) 殺処分 : 作業に要した期間 1月23日(土) 8時30分~25日(月) 4時00分

2) 埋却及び消毒 : 作業に要した期間 1月23日(土) 8時30分~28日(木) 17時00分

### 【埋却】

埋却数量	殺処分した鶏はフレコンバック670袋に入れ埋却。その他汚染物品(卵、鶏糞、敷料、飼料等)もフレコンバックに入れ埋却。
埋却場所	当該農場の敷地内
埋却溝	幅6m×全長190m×深さ4m

### 【消毒】

- ・鶏舎等の清掃、薬液散布、床面への消石灰散布
- ・農場敷地、埋却地への消石灰散布

## 3) 車両消毒ポイントの設置

1月23日(土) 8時30分から、発生農場の半径10km以内に消毒ポイント4ヵ所を設置し、畜産関係車両を消毒(移動制限区域の解除まで継続予定)。

## 4) 防疫措置に要した動員数

所属	作業延べ人数
県	1,407人
小矢部市	294人
いなば農協	32人
陸上自衛隊	455人
計	2,188人

\*その他、作業員の健康管理のため、医師・保健師等延べ238人配置。

\*県建設業協会、県トラック協会、県バス協会、県ペストコントロール協会、県医薬品卸業協同組合、防疫資材販売事業者、ガス事業者等の関係団体等からも資材調達、埋却、運搬、消毒等に協力、支援をいただいている。

## 5) 防疫措置完了の報告

1月28日(木) 17時00分、殺処分や埋却、消毒等の全ての防疫措置が完了したことを、現地防疫責任者(西部家保所長)から富山県家畜伝染病防疫対策本部長(農林水産部長)へ報告があり、対策本部長(知事)へ報告。

## 4 防疫措置完了(1月28日)後の対応

2月8日(月)午前0時、防疫措置完了後10日間異常が見られていないことから、国と協議の上、搬出制限区域(発生農場から半径3~10km以内)を解除。

## 5 当該農場周辺の農場等の状況

当該農場の疫学関連農場である1農場(小矢部市)において、1月23日(土)に遺伝子(PCR)検査等を実施した結果、すべて陰性を確認。この疫学関連農場を含む搬出制限区域(発生農場から半径3~10km以内)の4農場において異常な死亡鶏等は確認されていない。なお、県内全ての養鶏農場等で異常な死亡鶏等の報告はない。

(西部家保防疫課 池上課長)

# 高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 情報

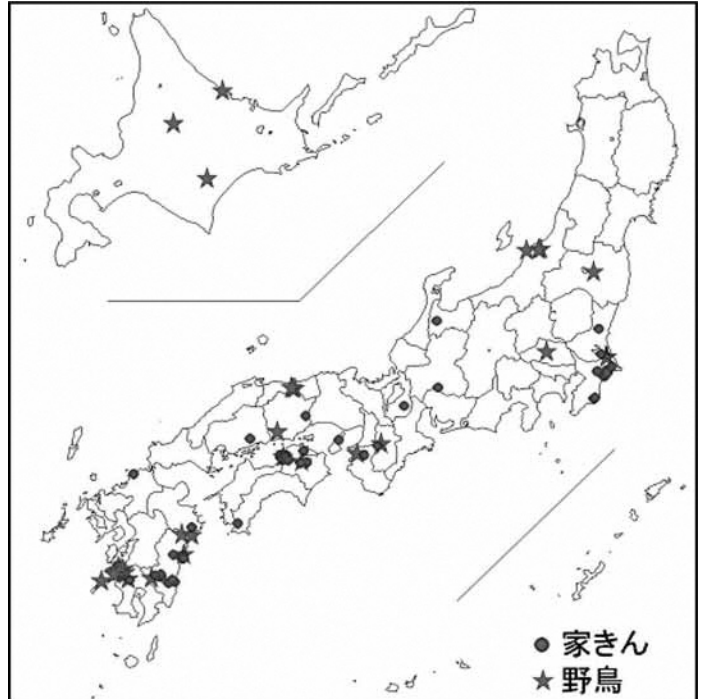
## 1 国内での発生状況 (令和3年2月9日現在)

HPAIは1月以降、岐阜県、千葉県、鹿児島県、富山県、宮崎県、茨城県、徳島県の7県で計14事例の発生が確認されました(6ページ参照)。岐阜県美濃加茂市、鹿児島県さつま町及び富山県小矢部市、茨城県城里町は、今シーズン同県での初めての発生となります。これにより、これまで17県47事例の発生が確認され約935万羽が殺処分されたこととなります。今シーズンは大規模農場、養鶏密集地域での続発によって殺処分羽数が増加し、過去最大の殺処分羽数となっています。

また、野鳥からは11道県42事例(5県7事例検査中)よりHPAIウイルスが確認されています。これまでの野鳥の発生状況については環境省のウェブサイトをご覧ください。

## 2 飼養衛生管理基準の一斉点検結果

昨年12月末から1月にかけて、2回目の飼養衛生管理基準の点検を行いました。前回とは異なり、対象を養鶏農場だけでなく、愛玩鶏として飼養されている方まで広げ、県内全ての家きん飼養者で実施しました。



令和2年度国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況  
(出典: 農林水産省ホームページ)

項目 (飼養衛生管理基準の重要項目)	1回目の点検結果 (令和2年12月18日時点)		2回目の点検結果 (令和3年1月18日時点)	
	報告農場数	遵守率	報告農場数	遵守率
衛生管理区域出入り 手指消毒等	7,677	93%	13,543	92%
衛生管理区域専用 衣類・長靴	7,677	90%	13,543	89%
衛生管理区域出入り 車両消毒	7,631	89%	13,365	93%
家きん舎出入り 手指消毒	7,677	90%	13,542	91%
各家きん舎専用長靴	7,677	88%	13,480	89%
野生動物侵入防止の ネット等の設置等	7,677	91%	13,520	95%
ねずみ及び害虫の駆除	7,677	96%	13,456	93%

左表は全国での点検結果です。今回は対象範囲を広げての点検であったため、一概には言えませんが、概ね前回から遵守率は大きく向上しませんでした。特に、「衛生管理区域専用の衣類や長靴の着用」、「家きん舎専用の長靴の着用」が共に89%と9割を下回る結果となっています。

本県においては、全体的に遵守率は向上しましたが、遵守率100%は達成できませんでした。

本県においても、「家きん舎専用の長靴の着用」の項目が遵守率の低い結果となりました。農場へのウイルスの侵入を防止するためにも今一度、自農場の衛生管理を見直していただき、指導のあった項目については早急に対応していただくようお願いいたします。

依然として国内のどの地域で発生してもおかしくない状況にあります。改めて日々の衛生管理を徹底していただくことに加え、衛生管理区域内への石灰散布等、こまめな消毒の励行をお願いします。また、今シーズンの発生事例の中には埋却地の確保が困難であった事例が報告されています。今一度、自農場の埋却地の確保について再確認していただきますようお願いいたします。

(西部家保防疫課 小林獣医師)

# 酒粕給与牛肉のブランド化に向けた取組み

～「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業について～

## 1 はじめに

県では、今年度から、日本酒の製造過程で得られる「酒粕」をエコフィードとして黒毛和種に給与する取組みを県肉用牛協会や県酒造組合と連携して実証しており、「とやま和牛」の新たなブランド化につなげたいと考えています。

## 2 酒粕の特性について

酒粕は、県内に多くの酒蔵があり、発生量が多く入手が容易である、アルコールの抗菌作用により、腐敗しにくく日持ちする、飼料成分のバランスが良い、アルコール分が含まれるため牛の食欲増進が期待できるという特徴があります。また、「米どころ・酒どころ富山」がイメージできる魅力的な飼料資源です。

表. 酒粕の成分

水分 (%)	アルコール (%)	成分(乾物中%)				
		粗蛋白質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	NFC
59.6	8.5	12.1	1.0	0.2	0.5	86.4



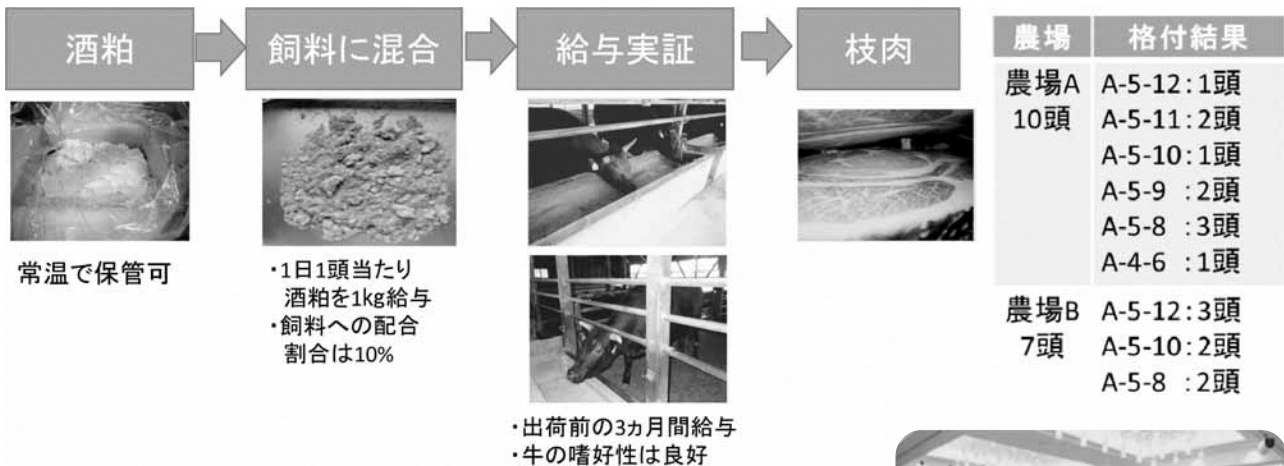
## 3 給与実証の概要（県肉用牛協会へ委託）

県内2農場において、酒粕の給与実証を実施しました。

現在17頭の出荷が終了しており、出荷牛のA5比率は94%で、県平均(64%)や全国平均(47%)と比較し、非常に高い成績となっています。

また、実証農家からは、「牛の嗜好性が良く、夏に食欲が落ちなかった」という意見がある反面、「粘りがあるので給与に手間がかかる」との意見もあり、今後の普及に向けて、給与しやすい酒粕入り補助飼料の開発が必要であると考えています。

### 【給与実証の概要】



## 4 おわりに

昨年11月に、酒粕給与牛の生産拡大や消費拡大を推進するため、関係団体や有識者で構成する「ブランド化検討会」を開催しました(右写真上)。

酒粕を給与した牛肉(右写真下)を試食した委員からは、「非常に柔らかくておいしい」等、好意的な意見が多数寄せられました。

また、この取組みについては、マスコミや料理人等の実需者も注目しています。

丑年の今年に幸先良いスタートを切るため、関係者が連携し、「とやま和牛」の新たなブランド化により、稼げる・競争力のある畜産の実現を目指しましょう!

(農業技術課畜産振興班 高平副主幹)



## ファボーレでとやまポークの安全性をPRしました

1月23日(土)に富山市のショッピングモール ファボーレで、消費者を対象に「とやまポーク」の安全性をPRしました。

このPR活動は、豚熱に対する正しい知識や「とやまポーク」の安全性を消費者に啓発するために行っており、昨年に引き続き、今年度2回目の開催となります。

会場では、大型パネルで豚熱は人に感染しないことや、養豚農家が野生イノシシの侵入防止柵を設置するなどの防疫対策を徹底していることを紹介しました。

また、パネルを見た消費者からは、「安全だと思って豚肉を食べているが、生産者が労力をかけて育てていることが改めてわかった」という声をいただきました。



パネル展示で「とやまポーク」の安全性をPR

(農産食品課食品安全係 槻尾主任)

## 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組みについて

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、10都府県で緊急事態宣言(3月7日まで延長)が発令されました。また、本県では1月13日から警戒レベルを「ステージ2」に引き上げ、夜間の外出自粛等の対応が求められています(2月9日現在)。日頃の感染予防の取組みが、作業者はもちろん、農場を守ることにもなりますので、畜産農家の皆様は、以下のチェックリストで農場における感染予防対策を確認され、体制を整備していただきますようお願いいたします。

(西部家保環境課 飯田課長)

### 新型コロナウイルス感染症対策チェックリスト

項目	チェック	備考
<b>1 常時の予防対策</b>		
体温の測定と記録		体調不良の場合は、場所長に連絡
マスクの着用		夏場は熱中症に留意
手洗い・手指の消毒		こまめに実施(出勤時、トイレ使用後等)
頻繁に触れる箇所の拭き取り清掃		通常の清掃に加え、消毒用アルコール等で人がよく触れる箇所(ドアノブ、スイッチ、手すり等)を拭き取り清掃
不要・不急の来場者の制限		畜舎等への部外者の立入を最小限とし、来場者は日時や名前等を記録
人が集まる場所の換気の実施		こまめに換気を実施
<b>2 農場における予防対策</b>		
農場内での連絡体制の構築		責任者・担当者の明確化と連絡体制の確認 連絡先リストの作成・共有
作業の固定化・グループ化		発生時に業務継続に支障が生じる数の濃厚接触者が出ないように、作業体系・配置・動線等を検討
作業員同士の距離の確保		作業時の作業員同士の距離(目安は2m)を確保できる作業体系・配置・動線等を検討
供用機材等の特定と清掃・消毒		できる限り機材等の共用を避ける
休憩・打ち合わせ時の三密の回避		時間・場所をずらした休憩の取得 ホワイトボードやSNS等を活用した作業指示・確認の実施
<b>3 発生時の対応</b>		
発生時の連絡体制の確認		保健所、生産者団体、関連事業者、行政等への連絡体制を事前に確認、共有
重要な作業ポイントの洗い出し		発生時の支援作業員が円滑に作業できるよう作業の重要ポイントを整理(可能であればマニュアル化)

出典：農林水産省ホームページ(一部加工)

## 全国の主な家畜伝染病の発生 高病原性鳥インフルエンザ (法定伝染病) (2月9日現在)

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数 (万羽)	血清型
35	1月11日	千葉県いすみ市	採卵鶏	約115	H5N8
36	1月13日	鹿児島県さつま町	肉用鶏	約3.2	H5N8
37	1月21日	千葉県横芝光町	あひる	約0.6	H5N8
	(関連農場)	北海道赤平市	あひる	約0.06	
		宮城県角田市	あひる	約0.05	
		茨城県古河市 (2戸)	あひる	約0.06、約0.1	
		茨城県かすみがうら市	あひる	約0.1	
		埼玉県行田市	あひる	約0.09	
		埼玉県春日部市	あひる	約0.13	
		大阪府松原市	あひる	約0.03	
奈良県御所市	あひる	約0.02			
38	1月23日	富山県小矢部市	採卵鶏	約14.1	H5N8
39	1月24日	千葉県匝瑳市	あひる	約0.35	H5N8
	(関連農場)	千葉県匝瑳市	あひる	約0.19	
40	1月31日	宮崎県新富町	採卵鶏	約8	H5N8
41	2月2日	茨城県城里町	採卵鶏	約84	H5N8
42	2月4日	千葉県匝瑳市	採卵鶏	約16.9	H5N8
	(関連農場)	千葉県旭市	採卵鶏	約0.75	
43	2月6日	千葉県旭市	採卵鶏	約42	H5N8
44	2月7日	千葉県多古町	採卵鶏	約115	H5N8
45	2月7日	宮崎県新富町	採卵鶏	約24	H5N8
46	2月8日	千葉県匝瑳市	採卵鶏	約25.6	H5N8
47	2月9日	徳島県美馬市	肉用鶏	約0.8	検査中

## 県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
鶏の豚丹毒菌感染症	鶏	12月22日	1	2	
豚丹毒 (届出伝染病)	豚	12月25日	1	1	と畜場発見
		1月29日	1	1	
牛RSウイルス病	牛	1月12日	1	1	
牛パストツレラ症	牛	2月5日	1	1	

### ☆産休代替職員の紹介☆



《奥村 開 (おくむら ひらく) 東部家畜保健衛生所 検査課獣医師》  
 〈出身地〉富山県 (滑川市) 〈出身校〉北里大学 (病理、寄生虫研究室) 〈趣味〉古物  
 〈本人からのメッセージ〉今回、東部家畜保健衛生所に石原未希さんの産休代替職員として、1月1日から配属になりました。微力ですが少しでも早く皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願ひします。

### ☆お知らせ☆

催事等	期日	場所
北陸三県和牛子牛市場	2月25日	北陸三県家畜市場 (金沢市)

### 編集後記

1月の県内は記録的な暴風雪・大雪に見舞われ、一部地域で1月号の配送が遅れました。さらに、1月23日に県内で高病原性鳥インフルエンザが発生し、2月号の配送は全地域で遅れました。重ねてお詫び申し上げますとともに、本病発生により防疫措置等にご協力いただいた関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 [http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1687/](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/)  
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140  
 編集者 飯田 佳代 (富山県西部家畜保健衛生所)